

令和3年度 第2回 地方独立行政法人西都児湯医療センター評価委員会 会議要録

- 日 時 令和3年8月3日（火）午後7時00分～午後9時10分
- 場 所 西都市コミュニティセンター2F図書室
- 出席者 松本英裕委員長、永友和之副委員長、落合秀信委員、藤澤豊子委員、
水田祐輔委員、黒木隆子委員、八木毅委員（臨時）
- 【市役所】橋田和実西都市長（途中退席）、
津曲晋也総務課長、
那須康朗地域医療対策室室長、
日高利勝地域医療対策室室長補佐、
山口恒志地域医療対策室地域医療対策係長
- 【医療センター】赤塚 剛事務局長
黒木正道事務局次長兼財務・人事課長、
永野淳二事務局次長兼庶務課長兼経営企画課長
- 傍聴者 20名（一般傍聴者19名、報道関係者1社）

■会議経過

1 開会

（1）市長あいさつ

2 委員長あいさつ

3 議事

（1）令和2事業年度における業務実績に関する評価結果（案）について

発 言 者	内 容
委員長	本日の議題は、（1）令和2事業年度における業務実績に関する評価結果（案）について （2）第2期中期目標期間終了時に見込まれる業務実績に関する評価結果（案）についての2件となっております。 まず、第1回の評価委員会で委員の皆さまよりご指摘などがありました点につきまして、医療センターより説明をお願いしたい。
医療センター	説明（第1回分修正資料）
委員長	ただ今医療センターから説明がありましたけれども、まず医療センターの自己評価の変更が（資料75ページ）ありました。第2期中期目標期間終了時に見込まれる業務実績に関する評価結果（案）のうち、小項目、財政内容の

	改善に関する目標を達成するためにとるべき措置、持続可能な経営基盤の確立、（３）役割と負担の明確化について、評価委員会として意見等があればお願いします。
委員	変更点について質問させてもらってよろしいでしょうか。 この前は私の方で指摘させていただいたのが、令和３年度の収入について。今回２名増を見込んで２億４,１００万円増の９億９,５００万円ということで元々の数字よりは減らされています。それがその内科医がいなくなったものという形で説明されたと思うのですが、医師２名増の場合は外科の先生とそれから整形の先生、整形の先生はもともと１名いらっしやって１人増えました。患者さんがどれくらい増えるのか。それから外科の先生でどれくらい患者さんが増える見込みでそういう計算になっているのか。この表でいくと入院患者数が前回の数字から増えていますよね。入院患者数。前回からすると増で修正ですよ。これ内訳ってあります？診療科ごとの。
医療センター	１,０２０人に関しまして診療科ごとの内訳は出しておりません。
委員	どうやって１,０２０人というのは計算されたのですか。
医療センター	基本ですね、常勤医師４人ということで現状については出しています。いろいろな考え方があるとは思いますが、それで出しています。
委員	常勤医師が４人だから入院患者が１,０２０人になるという形でいった時に、すみません、救急車の搬入件数は２年度から３年度に対してそんなに増加しないと見込まれているようなのですが、そうなった時に紹介率やその他を含めた時に医師２名が増えましたので入院患者が増えるというのはどう繋がるのでしょうか。結構、入院患者も相当な割合が救急の患者さんだったと思うのですよ。それで令和２年度で令和元年度から半減していて、令和３年度もそれとほぼ変わりませんという見込みがあがっているのに入院患者数はお医者さんが増えるから結構な数、倍増ぐらいの割合まではいきませんが、増えますとなっているわけですね。 そうなるとこの整合性が取れていないじゃないかなと思うのですよ。
委員長	すみません。医師の立場から言います。 大腿骨の場合は救急車搬送があります。けど、手関節の骨折とか上肢の骨折というのは歩けますので、患者様が、家族が連れて行かれたりとかという形ですから、救急車の数とその入院の数というのは必ずしも整合性というのはいらないです。 そのまま通院という形もいらっしやると思いますけれども、やはりMRIという検査機械もあることを含めたらそういう検査入院とかも含めて、救急

	車がからまなくても入院患者が増える要素はたくさんあると私は思います。
委員	整形外科に関しては、近隣の先生方の協力もあって増える状況にあるという形ですね。 そしたら内科の常勤医がいなくなったことによる減少というのがあまり見込まれてない気もするのですよね。倍増しているのです。
委員長	そこはまた小田先生が総合診療科という肩書を持っていらっしゃるし、小田先生が内科の当直を結構されているのですね。 それを考えると、外科当直の時に内科医がいらっしゃらない場合、ある程度私も救急車を受ける気構えでやっています、ちゃんとその後のフォローができる患者であれば内科の患者も受けている状況ですので、そこは内科医師、確かに少なくなった分、その後のフォローというのは心配、懸念しておりますけれども、そこはもうドクターの裁量が大きいものですから、実際に搬送された患者さんもそのまま入院させて先生にあとを依頼すると。その先生が必要ということであれば転院ということはあるかもしれません。 だから、そういう面でも内科の方はカバーできているし、現状の大学との協力体制もすごくできて、こちらも紹介しやすくはなっています。
委員	それじゃ内科の患者さんについても、整形の小田先生がある程度院内で入院患者さんも管理されているということですか。
委員長	整形外科という形じゃなくて総合診療科という肩書でやっています、小田先生が。
委員	もう小田先生は総合診療医なのですか。
委員長	総合診療科です。自治医大卒業生ですので、そのへんは資格を持っています。
委員	はい。わかりました。
委員長	他ございませんか。よろしいですか。
委員	はい。
委員長	ないようでしたら、(1) 令和2事業年度における業務実績に関する評価結果(案)についてでありますけれども、資料1の令和2事業年度における業務実績に関する評価結果(案)について前回評価委員会において5段階評価を行っていただきました。 また、判断理由等についてのご意見もいただきましたので、その結果を事務局がまとめまして事前にお届けし、その確認をお願いしたところです。 先ほどの評価2に下げられた分をひとつだけ変わっていますので、私達は3と評価させていただいたところですが、その評価に関して何かご意見等を

	確認したいと思います。
委員	すみません、ここは前回どういった議論をしたのかあれだったのですが、すみません、多分私も漏らしていたと思うのですが、年度評価は1ですね。
委員長	1にしました。
委員	ここに出てきているやつが3と3で3ですという委員会の評価になっているのですよ。なので、すみません、ちょっと私も記憶になくて、他のところは3と1で3という評価を多分しないと思うので、議論しましたか。
委員長	していると思うのですが、要は確かに令和2年度というところはありませんけど、令和3年度はもうちょっとプラス計算でしたよね。
医療センター	当初、1回目の資料で先ほども申し上げましたけれども、当初予算のベースが常勤医師5人ということで、経常損益もプラスが見込めるというふうに私共はここに記述しておりました。 それによって自己評価を3ということでこちらのご評価も3といただいたのですが、今回、やはり経常損益はマイナスを見込んでおりますので、私共としては自己評価を2にさせていただきたいと思います。 それでご評価をお願いします。
委員長	当初、プラスでしたけれどもマイナス 4,113 万 8 千円ということですね。そこに対してのご意見かと思います。 今年度というか、令和2年度と言いますかね、このコロナ禍においてのこの赤字、確かに多額ではありますけども、そこは前回それに対しての評価をしていたところですよ。 今回はその令和3年度、見込みも含めての評価になりますので、マイナス 1 億 9,682 万 8 千円が今回マイナスといえど、4,113 万 8 千円になっているところを先生方、委員の方々がどう評価するかだと思います。 ご意見等ありませんか。
委員	意見だけ言わせてもらっていいですか。 私の意見としては2年度については2億の赤字、3年度について額はすごく減ることになるのかもしれませんが、4,100 万の赤字という形になります。 あとちょっと、今の委員長のご説明も含めて患者さんが増えますというところで話をいただいていますけども、とりまとめる対策室の方でもその予算というのは多分市の方で承認しますよね。年度計画等でも。 一応その中身の確認はしていただいたとして、それでも3年度あってそのうち2年度赤字という形になりますので、良くて2なのかなと思います。

	ただ、私個人としては元々1と言っていましたから、赤字については。なので（評価は）1だと思いますが、良くて2かなと。
委員長	令和2年度に関しては1という評価で、ただ、トータル3年間の評価としてご検討していただきたいと思いますが、他ご意見等ありませんか。 それでは決を採りたいと思います。 前回の委員会の評価の3のままでいいのではないか、あるいは医療センターが評価を下げられたわけですがけれども、トータルで考えた場合にやはり2ではないかというところだと思います。 では、2の方がいいという方、挙手をお願いします。
委員	私は1です。
委員	私は3。
委員	先生、一言いいですか。一応、これを評価するにあたりまして、評価基準というのが定められていますので、3となりますと概ね達成しているということになるのですよ。それを考えますとちょっと3は抵抗があると思って2で手を挙げました。以上です。
委員長	合計が黒字とかいうところで、それもマイナスの千万台だったら。
委員	みんな頑張っているから、売上を上げろ、上げろとあまり言うのもと思いますけどね。だから、それなりにみんな頑張っているのだし、モチベーションを1とかにされたらたまらんと。こんな病院辞めるということになると思いますので、（評価は）2です。
委員長	これは大事なことでして、それこそ今の先生達が辞められたら大変なことになります。 実際、3というのは委員が言われたように達成ですので、これは実際合計でも、3か年で。コロナを抜きにしてもやはりマイナス評価にはなるかと思っていますので、2でよろしいでしょうか。
委員	はい、いいと思います。これほど頑張っているのに評価1となったらもうたまらんとします。こんな病院辞めると言い出すかもしれない。
委員長	年度では1と評価しましたが、3か年を考えれば今回3年度、実際これを達成してもらいたいと思っていますけれども、2という評価でよろしいでしょうか。
委員	はい。ただ、今回4,100万という赤字というのは非常に喜ばしい見込みだと思うのですよ。だから、やはりそれを達成してもらって初めてこの評価が正しかったなとなるのだろうなと思っています。
委員	まあ、予算というのは見込みだからね。

委員	でも、その見込みで評価するわけだからですね。
委員	予算の審議というのは理事会でするわけだから。
委員	だから、理事会も責任があります。なので、それを達成できなくて大幅な赤字になった時には、やはり病院としても、今後は資金が不足したりとかいろんな問題が出てくるから大変じゃないですか。
委員長	わかりました。そこはもう当然先ほども言いました。それを達成すべく、そして実際に。8月の当直表見られました？
委員	いや、8月は見ていません。
委員長	(当直については) 7月よりも8月はより充実しています。それぐらい今の先生、そして大学が一番協力してもらっていますけれども、各科が以前と違う診療科からも応援を受けていますので、ぜひこの3年度、達成に向けて、医師が来るということでまた救急の受けも違ってきますので、ぜひ頑張ってもらいたいと。評価は2で良いでしょうか。
委員	はい。
委員長	それでは、その資料1の小項目も含めた評価結果(案)については承認いただけますかね。
委員	はい。
委員長	資料2の令和2事業年度における業務実績に関する評価結果(案)について事務局から説明をお願いします。
事務局	説明 (資料2)
委員長	ただ今事務局から説明がありましたけれども、ご意見、ご質問等があればお願いいたします。
委員	すみません。正直私はこの案をもらってちょっと愕然としました。 というのは今までもこの評価基準で評価してきているのですよ。そのとおりなのですから、今回、市の中期目標、センターの中期計画にもうたってありますけど、最初にくる医療サービスの緊急性の高い脳疾患や専門的な内科疾患における二次救急医療というところがちょっと以前までの体制とすると大きくできていないというのがあります。そこに加えて2億の赤字という状況なわけですね。それを中期目標、中期計画と照らし合わせたときに概ね順調に進んでいるという評価でいいものなのかと。 やはりそこに関してはちょっとこの評価で正しく出てこないのだなと、この評価基準ではですね、というふうに思いました。 何か解決策はあるのかどうか、ちょっと対策室にも聞きたいのですが、ちょっと私としては、まあ最終的にどうなるのか、私の意見としては現状を

	見て概ね順調だという答えを市長に答申して市長がもしそのままやったとして住民の方に今のセンターは目標に向かって概ね順調ですよと言ってしまっているのかというところは、私としては納得できないと思います。
委員	これは昔の体制を見るのではなくて、現在の人員で概ね順調にしているということじゃないのですか。
委員	違います。評価委員会で評価するのは中期目標と中期計画に沿って、どこまで実施できているかを評価することになりますので、現状、コロナやいろいろなことで頑張っているのはそれとして評価していいのですが、その中期目標、中期計画に沿ってどうなのかという評価がメインになるのですよ。
委員	中期計画はいつ立てたの？
委員	今年は3年目ですね。
委員	前の理事長がいたときのことをいうわけですか。
委員	そうです。残り1年でしたね。その中期目標や中期計画というのは見直すことも可能なのですよ。現実、私達がやっていた時も新病院建設の内容変更があったので、市と相談をして中期目標、中期計画を変更したことがあります。それがもう現実的にとても無理だという形になっていたのですね。
委員長	委員。わかるけども、その中期計画を途中で変える。このコロナ禍の状況でそういう計画を変えることはできないと思います。それはもうどこの病院も同じだと思います。どこの独法も同じだと思います。
委員	はい。だからですね、変えられなかったら変えられなかったでいいし、ただ、評価としてはその目標や計画に沿った評価をして、ちゃんと意見を付けるようになったじゃないですか。なので、こうこうこうだから、こういうふうですよという意見をつけるというのが本当であれば、中期計画、中期目標をまず評価、それにプラスでコロナですごく頑張っていますとかいろんなところを意見で付けていくということが正しいのかなと思っています。
委員長	まあ、確かにおっしゃるとおりかもしれません。 ただ、そこはいろいろと考えなくちゃいけませんけども、逆に言えば今回委員もおっしゃったように、やはりいるスタッフ達の士気を落とすような評価という、文書というのはどうかとは思いますが。ですから、結果的には今委員もおっしゃったようにコロナ禍での大変さ、そこは本当に一番この医療圏では頑張ってくれたセンターですので、そういう面での評価をしっかりと文書で入れるか何かして、今の委員とかのご意見に対しては応えられるかなというふうに思います。 ですから、言葉としては概ね順調という、どうしてもそれしか言葉がない

	からですね。これはもう前回皆さんたちがひとつひとつの小項目を評価してもらって、そういうのは平均値でその領域に入っているわけですから、そこを無理に落とす必要もないかなと私は思いますけれども。
委員	現状を見た時に概ね目標の達成に向けて進んでいるというところがどうしてもですね。
委員長	委員の言うように、例えば途中で、令和2年度に変更できればまた良かったかもしれませんが、多分、おそらく全国見渡してもそういう余裕はないと思います。
委員	いや、だからですね、すみません、私の勝手なお願いですけど、例えば評価の基準に照らし合わせたら確かに概ね順調に進んでいるとなっていて、「なってます」と。ただし、「ここ、ここに関してはできていません。」と。
委員長	だからそれは実際評価1があるわけですから。
委員	いやいや。だから他のところでも住民への医療サービスの部分とかでも、脳疾患のところでは大事なところがありますよね。だから、項目で見ると達成できてないところも、第1のところでしたら2が5個あるのですよね。3が7個。これは普通達成できている項目です。それで4と5が計4個なのですよね。だから、目標に項目の数でいったら達成していない項目の方が多いわけですよね。達成できているのが中間で、その上と下との評価で足したら下評価の方が多いわけですよね。 でも、この評価基準では達成しているとなるのです。そこは私も認めます。この評価基準による評価は。だから、そこにいろんな記述をしてほしいというところなのです。「ちゃんと住民の方が概ねその順調に進んでいますよとなっているけど、ちゃんとマイナス部分はマイナス部分でちゃんと表記してあるのですね」と。「だから、評価委員会としてちゃんとそこは見た上で評価基準がこうだからこうなのですね」というふうな説明ができるようにしたいのですよ。
委員長	わかりました。委員が言われるように確かに脳疾患に関してはマイナスでしょうけれども、新たに整形疾患とかは今までなかったプラスな面と言いますか、非常に、すみません、私は整形外科でその事情がわかるから言いますが、収入もかなりの減収になりましたけれども、医療センターの今の状態でやっていくしかないですから、そのスタッフを活かした特徴のある今医療センターに変わりつつもあるというのは、僕はあったと思います。
委員	だから、それも書いてもらって全然構わないのです。だから、中期目標、計画にあわせたものを書いて、それにプラスもマイナスも書けば一番わかり

	やすいのかなと思います。
事務局	いいですか先生、ちょっと。それぞれ（委員の）意見がありまして、こういう記載をした方がいいのではないかなというのがあって、それをこの会議の中でまとまりきればそれを記載していくという形になろうかと思うのですけれど。それがなかなか難しくそれぞれの意見を私達が一度集約させていただいて、それをまとめたものをまたこういう形で審議していただくのか、もしくは今コロナの感染拡大等もありますので、例えば書面で決めていくのか、そういったものでやり方はあるかと思うのです。もし、今日決定するということであれば、今日意見を出し合っていていただいて、ここに記載してもらうものを決めていただくというのが、最短の策だとは思いますが、それが可能かどうかということになろうかと思います。
委員長	実際の総合評価に関しては、先生方どうでしょうか。これはもう数字でいく形になりますけれども、小項目を前回あれだけの時間をかけて評価した分ですから、これは基準に従って総合評価は皆さんこれでよろしいですか。 いいと思われる方は挙手をお願いします。
委員	挙手
委員長	評価はそれでいかせていただきたいと思います。 では、先ほどの委員の（意見）は確かに貴重な意見ですので、実際の、現実ですね、コロナ禍も含めての話ですけれども、脳疾患系の・・・そのまま住民にということも言われましたので。それと、実際に様変わりはしつつあるのでしょうか、現在の令和3年の先生達の努力を、それも評価していかなくちゃいけないと思いますので、その部分を含めて、ちょっと文言は作ってもらって書面決裁でいいのではないですか。
事務局	それは委員の発言の部分も意見に入れるということでもよろしいですか。
委員	みんな前の事情はみんな知っているのですよ。それで、今まで評価してきたのだから、それでいいと思います。
委員	市民の方達にちゃんとそこへんをわかってもらわないといけないから、評価委員会でこういう意見を市長に答申しましたという形になるわけじゃないですか。 だから、ちゃんとそういったプラスもマイナスも書いていきたいと思います、市民の方達にも市長が説明しやすいようにということです。 市民の方は今、知りたがっている人が多いわけですね。いろんなことがありましたので、ご存じのとおり。 だからこそ、市民にしっかりと説明をしないといけないと思っている

	のですよ。そこはわかっていたきたいなど。やっぱり、そこに実際自分も関わった人間だから、市民の人達にわかってもらうというのが重要じゃないですか。
委員長	39ページですけど、その全体のところに先ほど事務局も言われたように、常勤医師（退職）のことは文言が入っているのですよ。実際減ったことは。そのために新規に受け入れる患者さんも大きく下回ったという形で内容的には詳しくはないかもしれないけれども、医師の減少というのが当然ながら減収に大きく影響しているというところは文言としてちゃんと書いてあるので。
委員	だから私が言ったのは評価として目標を概ね達成すると出ているから、概ね達成しているという評価でも、こういうところは不足していますよという評価委員としての意見を記述したいということです。 これ（評価案）は対策室が作ったものだけど、医療センターが記述してきたものをそのままこうやってここに書いてあるという感じがあるので、評価委員会の意見としての記述をしたいなということです。
委員	評価委員会として私はもうこれでいいと思います。
委員	それはもう、それぞれの委員さんの意見だからですね、それはそれでいいじゃないですか。
委員長	これは、だから評価1ごとの文書も入ってはいると思いますよ。だから、プラスのことも本当だったらそれも書いていかないと結局いけないので。 しかし、そこは未知数な部分でありますから、現時点での常勤医師が少なくなったことによる評価というところで、多分、皆さん方もわかっていたけるのではないかと思いますけどね。
委員	このように収益が下がりましたよね。そしてご苦労なさっていますね、先生方が。それはどこからきたのかなというのを私一生懸命考えている所なのです。今いらっしゃる先生方が大学からとか県病院から先生方、開業の方からも来ていただいて、そして、なんとか維持していただいておりますけれども、なんでこういう結果になったのかなという思いがものすごく強いのです。 脳外は安心して、医療センターがあるから大丈夫よねという思いがありましたが、お二方ですか、出ておいきになりまして、私は市民代表で出ていますが、地域ではすごく不安がっていらっしゃいます。
委員長	先日の講演会で宮崎県内の脳外科疾患のデータとかありまして、実際西都児湯が空白地域ではあります。そこに関してその周辺、特に宮崎市ですね。そこでカバーしているという形でその講演会ではお話されました。

	その分、西都児湯医療センターには脳外科医が週3回、時間帯は限られていますけども、来ていただいているのと、大体土日を中心に当直医も脳外科の方から数少ない医局の数から出していただいております。平日も何人か出していただいている状況です。
委員	それでひとつお願いは、この間理事長先生ですか、おっしゃって、市長に早く医者を集めてきたらいいというお言葉があったかと思うのですけれども、ひとりでやることでなくて皆さん、開業医の先生方も医師会の先生方もみんなで考えて、そして脳外科の充足、脳外科が一番ネックになっているのです地域では。 ですから、そのあたりを大学の先生達に依存するだけじゃなくって・・・。
委員長	いや、ちゃんと理事長が、理事長は特に行かれていますけど、私も会うたびにしっかりと応援をとという形を、それは努力させていただいております。 ただ、現状は脳神経外科の医局がそこまでの余裕がないのが現実です。
委員	そうですね。それはもうわかりますけれど。
委員長	だから、当直と外来をしていただいているのが申し訳ないけど精いっぱいということが現実です。
委員	ずっとひとりでやっていたのですよ。そして、やっと2年前くらい、2人目の脳外科がきたのが。
委員長	そうです。だから、とりあえずひとりで頑張ってくれと。それで何とかふたりという体制を築き上げたのですよね。それくらい医局としては厳しい状況ではあります。余裕はないということはおっしゃっていました。 だから、その中でもいつもそういうチャンスがあれば働きかけていますし、理事長の方も大学の方には出向かれていろいろな形で努力はされていると聞いております。
委員	そうですか。今高齢者が集まる100歳体操とかいろいろあるのですが、そこで出る話が必ず「私達が脳出血を起こしたらどうなるの?」、「命捨てないといけないような気がする」という言葉がいっぱい入ってくるのですよ。だから、そのあたりでちょっと「そういうことをよく聞いてきてください」というお話で市民の方から押し挙げられましたので。
委員	脳梗塞なんか時間を争うのではないですかね。
委員	時間です。(時間が大事の意味)
委員長	ゴールデンタイムというのがありまして、その発見される、気付かれた時間によっても全然これはまた違います。
委員	そうですね。

委員長	ある程度、だからまあ金丸脳神経外科もこちらの地域の方はなるべく断らずに受け入れてくれているとか、そういう言葉もいただいております。
委員	ああ、そうですか。
委員長	確かに結果的には、30分で運命が変わる場合もありますよと。それはもう否定できません。 けれども、ある程度の早期発見であれば一応カバーできているという形で医局の方は申されていました。
委員	ああ、そうですか。
委員長	それはね、近くにあるのが一番です。
委員	市民にそういうことを知らせていただきたいなというふうに思うのですけれども、たくさん脳外科はありますよね。
委員長	そうたくさんはないですけど。
委員	それで、とにかく救急隊の方をお願いをしておけばいいわけですかね、これは。
委員長	救急隊が当然そこは判断されます。例えば脳梗塞の疑い、状況にもよりますけども、救急車が病院の目の前を通り越すこともあります。 その面は命というものが、それが一番関わりますけれども、ちょっとすみません、視点を変えますけども大腿骨骨折とかこちらで治療ができています現状もありますので、現状というものを評価してあげるべきだし、先生達がやはり頑張ってもらわないと次が膨らむというか、発展しないと思っていますので、そういう面でも新病院を作ることによって診療科を増やしていくということがやはり狙いかなと思います。
委員長	評価委員会として先ほどの話ですけども、ある程度の文章、そしてまた、いろんな形で市民への公開講座じゃないのですけれども、そういうのは今後企画していくのも大事かなと思います。 医師会も含めて、医療センター、行政、そういう座談会という形で機会を作るのも大事かなと思います。
委員	わかりました。
委員	すみません。この中期目標、中期計画の達成ですよ。全体評価は私もこれは皆で決めるものなので、良いとは思いますがただちょっとこの文言ですよ、達成に向けて概ね順調に進んでいるという、現在進行形なのです。となりますとちょっと抵抗があるかなと。ですから表はこれでいいと思うのですよ。ただ、委員の言われておりましたようにこの小項目を評価する時にみんなの出された懸念事項をそのままやっぱり付記して出された方が評価委

	員会としてはいいのではないかなと思います。
委員長	おっしゃるとおりですね。だから、確かに違和感は、概ねという形の。というのは正直思っていました。 全体評価としてはこのままでいかせてもらいますけども、ちょっと文言がある程度やはり、それこそ委員が言われた言葉じゃないですけども、住民がある程度わかる、納得できる文章にちょっと変えていくべきかなと思いますので、それをまた委員方、書面決裁でお願いしたいと思いますけどよろしいですか。
委員	はい。納得です。
委員長	じゃあ、それでお願いしたいと思います。

(2) 第1期中期目標期間終了時に見込まれる業務実績に関する評価について

発 言 者	内 容
委員長	続きまして、第2期中期目標期間終了時に見込まれる業務実績に関する評価結果（案）について、まず、資料3の小項目の評価結果について、特にご意見はなかったでしょうか。
委員各位	なし。
委員長	では、資料3の小項目の評価結果については、ご承認いただけますでしょうか。
委員各位	はい。
委員	先ほどの1点変更になりましたことについては。（確認の意）
委員長	はい。そうですね。 では、資料4の第2期中期目標期間終了時に見込まれる業務実績に関する評価結果（案）について事務局から説明をお願いします。
事務局	説明（資料4）
委員長	ただ今事務局から説明がありましたけれども、ご意見、ご質問等はありませんか。
委員	すみません。先ほどと一緒にですけど、一応意見として出たというところは残してもらわないといけないと思いますので、先ほどと違う書類ですので同じように目標を概ね達成するということには抵抗があります。 先ほどと同じように文言等見直しをしていただいて先ほどと同じ手続き（書面決済）をとっていただきたいなと思います。
委員	はい。異議なし。
委員長	他意見はありませんでしょうか。

	じゃあ、特に意見ないようでしたら、第2期中期目標期間終了時に見込まれる業務実績に関する評価結果（案）についてご承認いただきますでしょうか。
委員各位	はい。
委員長	じゃあ、承認いたします。 あと様式5の答申書（様式）について、ご意見はありませんでしょうか。
委員長	なお、市長への答申につきましては事務局にお願いしたいと思いますけれども、皆様それでよろしいでしょうか。
委員各位	はい。
委員長	では、事務局より評価委員会からの答申という形で市長へ報告をお願いしたいと思います。 以上で本日の審議を終わりたいと思います。長い間ありがとうございました。

4 その他（事務局より）

①書面決済について確認

②本年度のスケジュールについて

5 閉会